

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471300350
法人名	医療法人財団 弘慈会
事業所名	グループホーム まいはあと
所在地 (電話番号)	栗原市若柳字福岡谷地畑浦88番地 (電 話) 0228-35-3755
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 11月 19日・20日

## 【情報提供票より】(19年 11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 20 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 21.7 人	

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	1,170 円
敷 金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,100円		

### (4) 利用者の概要( 11月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 9 名	女性 18 名
要介護1	4 名	要介護2	12 名
要介護3	11 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.3 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石橋病院 かさま歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは町の中心からやや離れているが県道近くの広い敷地に独立家屋三棟がそれぞれの向きに建てられている。隣接地には老健があり、その施設長が兼務で医師なので毎週月曜日に必ずホーム内も巡回し、入居者の様子や健康状態をみて、職員に色々アドバイスを出している。このホームの最大の強みは近隣の同一法人が運営する老健・病院・通所リハビリ等との強い連携で入居者・職員は「安心」という大きな支えのもと生活や介護の業務を進めることができる点にあり、ホームにもリハビリ担当の職員が配置され、きめ細かい介護サービスの向上に全職員が熱意をもって取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で得た介護計画書の説明については、よく家族と話し合うように心掛けているし、緊急時手当についても消防署等の指導・訓練を繰り返している。ケア記録についてはさらに検討中で休日出勤については減少している。第三者委員については交渉中で同時に地域との交流はさらに深められるよう話し合いが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>まず各棟毎に全職員に自己評価を出してもらったが、全員が出せるひな形をつくり、各棟で話し合い、意見を出して各棟の自己評価を作り、それにさらに管理者の意見も加えるという形でまとめられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議の主な議題はホームの現状報告・議題の取り組み・活動の進め方等で話し合いが行われているが、地域交流に熱心な委員達がいてホームで何か行う時それにふさわしい地域の新しい人達が紹介され、話し合いがもたれて人の輪が広がっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との面会時の対応や遠方の人への電話連絡、さらに行事や色々の場面で家族の要望等の引き出しに努めているが、さらに家族との協力関係を強めるため家族会の立ち上げの是非を検討し形態についても話し合い、家族の意見・苦情・不安を出来るだけ運営に反映して良いケアが出来るよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町からやや離れていると言う立地的な事はあるが、近隣の人達との朝夕の挨拶、地区の芋煮会やお祭りへの参加、さらに地区防災会への参加等積極的に地域にとけ込み地域の一人として介護の発信基地となる努力がなされている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく生活できるよう支援するため各棟なりに理念を立て、棟内に掲示して、カンファレンス、ミーティングなどで「主役は入居者」我々はサポーター役であることを確認している。尚、地域密着型としての理念の見直しもお願いしたい。	○	地域密着型サービスとして地域のニーズにこたえられるよう理念の見直しを行ない住み慣れた地域での生活が安心してできる支援をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念記載のカードを常に各職員が携帯し各棟にも掲示している。また具体的なケアについても話し合いを行い意見を出し合って支援に生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩の時の挨拶や地域のお祭り、芋煮会への参加など、地域で孤立することのないよう交流が進められているが、認知症ケアの拠点として、尚いっそう地域との交流をお願いしたい。	○	今後さらに地域の一員として地区防災への取り組み強化や地域密着型サービス施設として地域のより良い介護の発信基地となることを目指しているの期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を自分達の行っているケアを見直す機会としてとらえ、全職員で意識改革やケアで何ができていないか等を話し合い、評価をサービスの質向上や具体的な改善に役立てている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで現在取り組んでいる活動や内容を報告すると共に、運営推進会議で出された意見や要望をもとに双方向的に地域に溶け込む努力が行われサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する各種行事に参加するとともに、各種社会資源の活用でもいろいろアドバイスされるなど、連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への面会時や電話で入居者の様子を伝えているし、話し合いも行われている。ホームの様子は広報誌も活用され、金銭管理についても出納帳に記入し家族に確認サインをしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時やホームの行事等で問いかけ何でも言ってもらえるよう雰囲気づくりをしている。それをカンファレンス等で話し合い運営に反映させるよう努力しているが、十分に意見を引き出しているとは言えない。	○	家族への協力をお願いしているが、なかなか意見要望を引き出すことは難しいので、その方策として各ユニットごとの家族会も考えている。さらなる家族等の意見が反映されたケアになることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者・家族との信頼関係を築くためには馴染みの職員が対応することが大切と考え基本的には各ユニットの職員は固定している。しかし異動もあるので職員が交代する時は移るユニットへの出入りを多く出来るよう配慮し自然に馴染みの関係が出来るようにしている。		
職員が					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習会などには成育度に応じて全職員に参加してもらい質の高いケアが出来るよう自己研鑽の場に配慮している。資格取得についても法人内で定期的に数多くの研修を行うなど支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入していて全職員が研修会や交流会に参加している。したがって他事業所の職員の研修も受け入れ関連する県の研修などにも職員は積極的に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ本人・家族にはホームを見てもらい日常の様子も知ってもらった上で職員が訪問したりして、段階的に馴染んで利用してもらうよう配慮している。止むを得ず、すぐの利用もあるが、その時も家族や関係者の協力を得て早く馴染んでもらうよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の思いや不安、喜びを同じ生活の中で分かち合い人生の先輩である入居者に学ぶという努力が見られ、それが声がけや誘導にもあらわれ穏やかなケア支援となっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のかかわりで入居者の表情や行動からその人の思いや意向を汲み取ることに努めていて、何気ない声がけやあまり話さない人についても周りから色々な情報を得ることで入居者をよく理解するよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回のカンファレンスや入居者をよく知る人の気づき情報を多く集め、家族・職員間の話し合いも重ね入居者がその人らしく暮らせる介護計画となるよう全職員で努力しているが、家族との話し合いは充分とはいえない。	○	より良い介護計画となるよう本人・家族と話し合い、意向や要望を多く引き出すよう努めているが充分とは思えないので更にいろいろの情報を得られるよう努力を続けたいとの事なので期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は見直しが行われているし、入居者の状態や変化、家族の要望などに応じては関係者と話し合いその都度の見直しも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じ通院の付き添い、身内の合流場所の提供などホームで支援できることにも柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族の希望を大切に協力病院は職員が付き添い、かかりつけ医についても必要なら職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」(文書)と共に説明を行い、さらに重度化が心配される入居者については、施設長(医師)が個別に家族と話し合い意向の確認などを行い、それに沿って全職員に方針の共有が図られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳とプライバシー保護については特に気を使っていて、声掛けの仕方や目立たないさりげないケアの対応の仕方も数多く職員間で話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの状態に配慮し、その日その時の本人の気持ちを尊重して本人のペースで生活できるよう柔軟に対応した支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒にテーブルで和やかな雰囲気ですりげなくサポートされ、食事の準備や盛り付けなども協同作業で行われ、さらにその前段のメニューの表示や買い物外出なども楽しみとなるよう進めているが、まだ工夫の余地があると思われる。	○	メニューのレパートリー(選択食等も含め)を増やして楽しく食事が出来るようにならないか、また外出しての楽しい食事等も検討されているので更に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの体調や希望にあわせゆっくりくつろいで入浴できるよう支援している。また入浴をいやがる人については声掛けや時間を変えて対応したりして入ってもらうようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状態に応じ一人ひとりがホーム内で役割や楽しみごと(食器ふき、掃除、洗濯たみ、園芸、手芸など)を見出せ、張り合いのある生活が続くよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調や希望に応じ買い物、ドライブ、散歩、外出とお天気を見ながら外に出られるよう支援している。また近隣の催し物にも体調を見ながら声掛けしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアについて全職員がよく理解しており、入居者に出てゆく気配を感じたら、全棟に連絡しきりげない対応で危険防止できるよう協力している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルもあり、消防署と連携して災害時の色々な場面を想定して連絡通報の訓練、入居者の避難誘導の訓練、消火器の取り扱い訓練等が行われ災害時に備えているが、夜間想定訓練も含めて地域との連携に訓練もお願いしたい。	○	災害や非常時に備え色々の訓練や対応が行われているが地域との連携、職員の心構えについてもさらに検討されているので自信を持って入居者の安全が守られることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分量は健康チェック表に記録して把握、献立は併設の管理栄養士に作ってもらい栄養バランスにも配慮し、さらに入居者の好みも取り入れられている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって使いやすい配置や馴染みのものを採り入れることに心掛け、年間を通じて玄関や廊下、リビングに季節感のあるものを飾り、入居者の作品等も飾って生活感も出せるよう工夫され居心地よく過ごせる支援がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや家具類・家族の写真や好みの本・入居者が作った作品等が持ち込まれその人に合わせた居心地の良い居室づくりの支援がなされている。		